

報告書抄録

ふりがな	こうちくりたにいちごうふん							
書名	高地栗谷1号墳							
副書名	今治新都市開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第4集							
シリーズ名	今治市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第99集							
編集者名	藤村 啓修							
編集機関	今治市教育委員会事務局 文化振興課				TEL 0898-36-1608 FAX 0898-24-2008			
所在地	〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町一丁目1番地16 今治市庁舎第4別館							
発行年月日	西暦 2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうちくりたにいちごうふん 高地栗谷1号墳	えひめけんいまぼりし 愛媛県今治市 こうちちよういっちようめ 高地町1丁目 乙358-1他	38202		34° 04' 15.9"	132° 58' 51.3"	20030204) 20031015	約2,200	今治新都市 開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
高地栗谷1号墳	古墳	古墳時代	前方後円墳 横穴式石室 埴輪列	埴輪 須恵器 鉄器 玉類		東に開口する狭い谷に立地する。墳丘盛土は版築工法を使用。墳丘括れ部付近に円筒・朝顔・盾形の埴輪列。供献須恵器に装飾系土器有り。外来系の首長墓が濃厚。		
要約	標高49.3mの丘陵の先端に占拠する前方後円墳。北東から東の眼下には来島海峡から燧灘が展望できる。古墳規模は、墳長約30m、後円部の復元径約18～18.5m、前方部長約11.5m、前方部と後円部の比高差約2.6mである。前方部先端はあまり広がらない形状、括れ部は緩やかに湾曲する。埋葬主体は横穴式石室で、墳丘は部分的に版築を使用した築造である。築造時期は、遺物等から6世紀後半の古墳時代後期と推定される。なお、石室はほぼ全壊。墳丘は南側が損壊されている。							